

保育しなの

阿部知事と懇談、野中部長に要望書を提出

令和2年12月23日、海野会長と6名の副会長が、長野県庁で野中こども若者担当部長に「保育施策と予算に関する要望書」を提出、その後、阿部知事と懇談を行いました。

阿部知事から、「明るい希望を持って暮らせる社会づくりを目指している。新型コロナウイルス感染症の拡大が続いており、県民が一致団結して乗り越えられるよう、協力をお願いする」とのあいさつがありました。海野会長は、「長野県は主体的な遊びを中心とした保育が十分に展開されていないと指摘されている。幼児教育支援センターにより、保育の質が向上するようにしてほしい」と要望しました。

各副会長からは、市町村には「福祉の視点」が強く、幼児教育としての理解が不十分、短期間の異動が保育の質の向上を困難にしているなどの意見がありました。また、幼保小接続が重要だが、小学校側の理解が不十分であるなどの指摘がありました。

阿部知事からは、「行政の中でも保育は独自性がある良い。現場に裁量を持たせ、行政が現場を支援して

いくべき」との発言がありました。

知事懇談に先立ち、野中部長に要望書を提出、野中部長から口頭で回答がありました。

野中部長回答

保育は、子育ての根幹であり、施設整備の支援、保育士マッチング支援など努力を続ける。

保育士の配置基準を高めるよう、国に要望したい。県単補助について、園児7～9人に対する補助の取り扱いは、現状を聞きながら考えたい。

関東ブロック保育研究大会には、ITを活用してほしい。本県も支援していく。

懇談中、野中

部長の「一日保育士体験に知事が行って、迷惑にならないですか?」との質問に、「子どもたちは、大歓迎です」と峰川副会長が答えました。



発行所

(一社) 長野県保育連盟

長野市大字中御所字岡田98-1

長野保健福祉事務所庁舎内(2階)

TEL026(228)4415

FAX026(228)9443

e-mail:kenhoren@khaki.plala.or.jp

https://horen-nagano.jp/

題字 海野会長

要望書(要旨)

I 保育の質・機能の向上のために

1 保育人材の確保と人員配置基準の改善を進めていくために、長野県も国に対して必要な財源を早期に恒久的に確保するよう強く働きかけてください。

2 企業主導型保育事業について保育の質と安全の確保を図るため、適切な指導の実施とともに市町村の関与が行われるよう検討してください。

II 職員の資質向上と処遇改善を進めるために

1 キャリアアップ研修の要件等の緩和について

① 短期間で要件を満たせるよう多くの研修機会を提供してください。

② 過去の研修受講実績を通算できるようにしてください。

③ 他県で開催される研修をキャリアアップ研修に認定してください。

2 信州幼児教育支援センターの幼児教育コーディネーター常勤化により体制を強

化してください。

III 「みんなで支える子育て安心県ながの」推進のために

1 「子育て支援総合助成金交付事業」については、今後も継続して制度を堅持するとともに、新たなメニューを検討するなど制度の拡充について積極的な対応をお願いします。

2 1歳児の保育士配置県単補助について、園児7～9人の場合も園児6人と同様に補助対象としてください。

3 保護者が保育現場の状況を体験する「一日保育士体験」を、首長、議員、行政担当者の皆さんも体験してください。

4 中核市とも十分連携し、県の保育行政を推進してください。

IV 関東ブロック保育研究大会の開催支援について

関東ブロック保育研究大会は、令和3年度第61回大会が長野県において開催されます。長野県も主催者の一員として、財政的支援、大会運営にご協力いただくとともに、式典への出席・ごあいさつを賜りますようお願いいたします。

令和三年度の保育関係事業について

長野県県民文化部 こども・家庭課保育係

長野県保育連盟の皆様方には、日頃から子どもたちに対する質の高い保育の提供や保護者支援に御尽力され、本県の保育行政推進の中核を担っていただいておりますことに、感謝を申し上げます。また、昨今においては、新型コロナウイルス感染拡大の中、感染予防対策を徹底の上で保育を継続していただいていることに改めて感謝申し上げます。

県では、子育てしやすい環境を整えるため、「保育対策総合支援事業」等の国庫補助事業の活用や子育て支援総合助成金による県単独補助事業の実施により、市町村等の取組を支援するとともに、県庁及び保健福祉事務所に幼保連携推進員、保育専門推進員・相談員を配置して、保育所の運営を側面的に支援しているところ です。

令和三年度の保育関連の主な事業等につきまして、ご説明させていただきます。

◆保育体制の強化

県内においては、3歳未満の待機

児童が依然として発生しており、その解消が喫緊の課題となっています。このため、令和三年度につきましても、保育士再就職支援コーディネート2名体制により、引き続き保育所等の求人施設と求職者とのマッチングを行います。

保育士確保に有効な取組である保育士修学資金貸付等事業については、今年度同様県内外の養成校進学者に貸付を行います。また、保育ニーズの高い地域で比較的小規模な保育を実施する地域型保育事業の施設整備に対する県独自の補助等を引き続き行います。保育士確保や受け皿の整備により待機児童の早期解消を図ってまいります。

◆信州幼児教育支援センター

県内の全幼稚園・保育所・認定こども園等において質の高い幼児教育を実現するため、平成三十一年四月に信州幼児教育支援センターを設置しました。保育現場に寄り添い、令和三年度は、次のとおり事業を展開してまいります。

・園種を超え、質の高い幼児教育に触れ、実践的に学び合う研修（信州幼児教育フィールド研修）を実施
・保育者育成指標に基づく研修の体系化により、スリムでキャリアアップ効果の高い研修体系を普及
・幼保小の接続カリキュラム「理論編」に基づく、市町村におけるカリキュラムの開発を促進

◆保育施設における子どもが安心して健やかに成長できる環境づくり

令和元年七月に県内の認可外保育施設で発生した死亡事故に関して、長野県社会福祉審議会重大事故検証部会から、令和二年十二月に県に検証報告書が提出されました。いただいた貴重な提言を受け止め、県内で二度とこのような悲しい事故が発生しないよう、再発防止に取り組みます。

報告書の内容については、既に市町村等を通じてすべての保育施設に周知済みですが、各位におかれましては、重大事故再発防止に万全を期すため、改めて関係職員への周知徹底と提言を含めた報告書の内容確認をお願いいたします。

今後事故防止に関する保育従事者の意識や対応力を向上させるため、保育従事者向け研修を拡充すると

もに、保育の専門職である保育専門相談員による巡回指導において安全に対する意識の定着等を図ります。また、年に一回実施する指導監査において、安全対策を重点的に確認し指導してまいります。

◆保育所の災害復旧事業等

令和元年東日本台風により被災した保育所等は、ほとんどが令和二年度中に復旧を完了しましたが、一部の未完了の保育所について、施設や設備の復旧費用に対して助成を行います。

また、市町村子ども・子育て支援事業計画に基づく病児保育事業を実施するための施設整備に要する費用の一部を補助し病児保育の推進を図ってまいります。

新年度予算成立前ではありますが、主な内容について述べました。

今後子どもたちの健やかな成長を支える環境づくりや新型コロナウイルス感染症対策に市町村等と連携の上、取り組んでまいりますので、引き続きご理解ご協力をいただきますよう、お願いいたします。

関東ブロック保育研究大会長野大会 ～7月1日、長野市で開催～ 分科会は、オンデマンド配信による 初のリモート開催

第61回関東ブロック保育研究大会は、7月1日にホクト文化ホールで全体会が開催されます。新型コロナウイルス感染症対策として、分科会は全てオンデマンド配信によるリモート開催となります。

また、全体会は募集定員を先着500名とし、ライブ配信とオンデマンド配信をします。基調講演、分科会助言者については変更ありません。オンデマンド配信が中心の開催となりますが、勤務地・自宅での受講も可能になりますので、多数のご参加をお願いします。

参加費は、1園1万円で、複数の分科会を受講することも可能です。



全体会 基調講演 講師
国立情報学研究所 社会共有知研究センター
センター長・教授 新井紀子氏
テーマ AIに負けない子どもを育てる

牛山前副会長 全国保育協議会会長表彰を受賞

全国保育協議会は、令和2年度の会長表彰に当連盟の牛山まきみ前副会長（茅野市立みどりヶ丘保育園長）を決定しました。

牛山前副会長は、茅野市立米沢保育園ほかの保育園において保育士として勤務されました。4か所の保育園では園長の職責を果たすとともに、当連盟の保育部会長・副会長として活躍されました。

例年、全国保育研究大会で表彰状が授与されますが、今年度の同大会が中止されたため、各都道府県組織において伝達することになりました。当連盟におきましては、12月23日の正副会長会議において、海野会長から牛山前副会長に伝達いたしました。



た。長野県においては、平成27年度以来5年ぶりの受賞です。

牛山先生、おめでとうございました。今後も、ご活躍ください。

災害見舞金、被災地支援募金が 支給されました。

～台風19号被災保育園～

令和元年台風19号災害で被災された保育園に対し、今年度新設した当連盟の災害見舞金が出給されました。併せて、従来から支給されている全国保育協議会の災害見舞金も支給されました。

また、保育三団体（全国保育協議会、日本保育協会、全国私立保育園連盟）から、被災地支援募金百六十八万円余が当連盟に送金されました。

正副会長会議で協議のうえ、被災状況に応じ、次のとおり被災保育園設置者に配分することとしました。

被災された皆様に心からお見舞い申し上げるとともに、保育環境の維持向上に役立てていただくことを願っています。

なお、被災地支援募金の残額は災害見舞金基金に積み立てることとしました。

区 分	連盟見舞金	全保協見舞金	被災地支援募金
長野市立長沼保育園	70,000円	70,000円	500,000円
豊野みなみ保育園	70,000円	70,000円	500,000円
千曲市立杭瀬下保育園	70,000円	70,000円	500,000円
千曲市立雨宮保育園	70,000円	70,000円	
飯山市立しろやま保育園	50,000円	50,000円	50,000円
合 計	330,000円	330,000円	1,550,000円



「子どもが大好きな棒と保育」

長野県民文化部 こども・家庭課兼私学振興課

幼保連携推進員兼私学振興専門員 本 藤 洋 子

「あそぶともだちがだれもない」「みんなどこへいったのかな？」片手に木の枝を持って誰もいない道を歩く主人公かんだ。絵本「めっきらもつきらどおんどん」のページにもあるように、子どもは木の枝や棒が大好きだと言えます。保育士として子どもと関わっていた頃、散歩に出かけると、落ちていた枝を拾って遊ぶ子が必ずいました。「お友達に当たらないように気をつけてね」が口癖だったことを思い出します。

そこで、私が訪問した園での保育と棒（枝）との関わりについて、書かせていただきます。

まず最初は、「ワクワク、ドキドキを見つけて遊ぼう」をテーマに活動が始まった2歳児のこと。十名の子どもたちが園庭に散らばっていきました。庭に描かれた道路に沿ってコンビカーに乗りお巡りさんごっこをする男の子。築山で型抜き（クッキー作り）をする女の子。落ちていた小さな木の実を転がして遊ぶ男の子。

四歳児に交じってサーキットに挑戦する女の子。思い思いに自分のしたい遊びを楽しんでいる中にお友達が持っている長さ三十センチ程の木の枝を「かして」と頼んでいる男の子がいました。なかなか貸してもらえませんでした。その様子を見ていた保育士の仲立ちで、小枝を貸してもらえるところになりました。欲しかった枝をやつと手にすることができて大喜びです。地面を叩いたり、ジャングルジムや滑り台を叩いたり、生垣を叩いたりして音の違いを楽しんでいるようにうでした。その後は「えい！やー！」「えい！やー！」と言いながら、生垣を叩いて遊んでいました。棒一本で一時間程遊びが続く、振り返りの時間に、その子は「戦いごっこをした」と満足気に話をしてくれました。

次に、園の近くのお宮へ散歩に出かけた時の三歳児の遊びの一コマから。樺の葉っぱが境内の地面を黄色く染め、歩くとサクサクフワフワ。落ち葉に潜り込もうとする子。葉っぱ

を除けて虫探しをする子。その中で、樺の木についている小さなどんぐりの実を見つけた三人の男の子。落ちていた枝を拾い、その小さな実を落とそうと真剣です。どのくらい落せたのかは分かりませんが、園に帰る時間まで真剣に格闘していた姿が忘れられません。

三番目の紹介は、クリスマスリースに必要な自然物を探しに近くの公園に出かけた五歳児の話です。「ただいま」と元気な声で帰園した女の子の手には、自分の背丈程もある綺麗な紅葉したみじの枝。「わーきれいなね！どうしたの？」と聞くと「山に落ちていたから持ってきた」と得意気に話し、花瓶に見立てた廊下に置いてある大きな箱に挿して、うれしそうでした。

大勢の子ども達がいる中で、棒を振り回すことになる「危ない！」からと禁止することが多いのではないのでしょうか。前述しました園での保育と枝（棒）との関わりについて担任の先生方の考えをお聞きました。

二歳児の先生は、広い園庭で棒を振り回しても危険は無いと判断したとのこと。三歳児の先生は、子どもが安全に棒を操作できると思われる長さは「自分の肩の長さだ」と何処かの

本に書いてあり、子どもが扱えるサイズの枝だったので、見守っていたとのこと。また、大きなみじの枝を山から持ち帰った五歳児の先生は「自分で持つて帰れると思える物は良いことにしている。持ち帰る時は、お友達の並んだ列の最後から枝を立てて持つて歩くことにしている」とのこと。

担任の先生方は、まず安全を第一に考えて、子どものやりたい事にできる限り応える「見守る保育」に尽力されている姿を感じることができました。

また、子ども達の発達を見極めながら、子どもの特性を理解し、各々の個性をより伸ばそうとする保育者の温かい眼差しも感じ取る事ができました。子ども主体の保育のあり方が重視される近年、このような保育の取り組みは、心から「ほっこりする」ものと言えるのではないのでしょうか。



あそんで・たべて・あそんで

松本保健福祉事務所

保育専門相談員 芦 澤 さゆり



本年度の保育園訪問はコロナ感染

症の様子を見ながら訪問される側も、訪問する側も互いに安心できるところまで待ち、スタートは七月からとなりました。登園の自粛をお願いした期間もあったそうで、新年度が始まったばかりの雰囲気を感じ出しながらも、子ども達は落ち着いて生活をしていました。子ども達を受け入れるにあたり、生活スタイルの見直しを行い、消毒は？遊びは？食事は？行事は？と課題が山積みの中で、園長先生を中心に知恵を出し合い我が園の生活を創り出していった様子が訪問の中でも感じられました。

見直す中で行事のあり方、方法を考え実践し今まで当たり前と思っていたこと、これでないといけないこと、これがそうではないことに気づき、別の方法、視点もあると発見し視野が広がったとの話もありました。コロナ感染症は不安で心配でマイナスの要素ばかりが目につきますが、「災い転じて福となす」何かあったときにこそ新しい発見が

待っています。

子ども達はそんな先生の姿を見ながら物事に取り組む姿勢を学んでいるように感じます。正解のない、例のないこれから予想されている世界を表すような出来事です。新指針はそんなことが当たり前になるこれからの世界で何を大切にしていけるかを示されているようです。

コロナ感染症の園での先生方の取り組みをちよつと分析。一、コロナ感染症をどうしていかうか考えた健康な心と体。二、自分で考えようとした自立心。三、一人ではなくみんなで考えた共同性。四、自分勝手ではなくみんなのことを考えた道徳性・規範意識。五、考えたことを発信した社会生活とのかわり。六、考える思考力。七、命は大事と思える自然との関わり・生命尊重。八、決め



お湯を集めて温泉の準備

たことをわかりやすいように文字や図に表した数量や図形標識や文字などへの関心・感覚。九、話し合いの中で行われた言葉による伝え合い。十、話し合いの中で自分の考えを表した豊かな感性と表現。日々の生活の中に十の姿はありました。



泡を極めて1時間半

保育園を訪問させていただいて、改めて子ども達は本当によく遊び、よく食べると感じました。室内で、園庭で、散歩に行つて、感じたり、考えたり、相談したりして自分のやりたい遊びを追求していきます。登園して荷物をサツと片付けて、外に遊びに行くと園庭で待っているのは、昨日の続きの温泉ごっこ、お湯の代わりは年長さんが駐車場から持ってきた、誰でも使つていい葉っぱです。温泉屋さんのジャングルジムは、いろんなものが増えていきます。お湯（葉っぱ）を集めた竹箒の収納場所、看板をもう一つつけたいと頑張る年中さん、やや危なっかしい体の動きと、紐を結ぶ手のぎこちなさ、近く

にいた先生はその子がどうしたいかを察し、出過ぎず、離れず援助していました。自分のやりたいと思ったことを実現できた子は本当に満足そうでした。また別の園では、自分のやってみたい遊びを選べるよう園庭に環境が用意され、一人の子が始めから終わりまで、泡作りに没頭していました。

遊ぶ時間をたっぷり確保するために、昼食の時間を限りなく十二時に近づけた園があります。指針が変わつて、講演会を聞いたり、本を読んだりたくさん勉強して、実践してみる。その後誰とでも良いので、実践したことについて話してみること、見えてくるのがたくさんあるように思います。隙間の時間を上手に使つて小会議の開催です。

たっぷり遊んだ後はご飯がおいしい。食缶が空になるほど食欲のある子ども達。子どもは遊びと、ごはんできていると思う瞬間です。

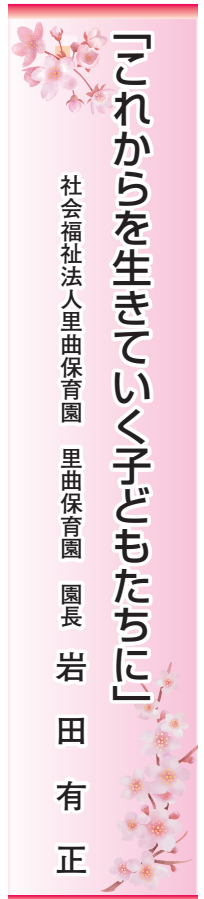
たくさん学びをいただいた保育園訪問でした。



おいしいごはん

「これから生きていく子どもたちに」

社会福祉法人里曲保育園 里曲保育園 園長 岩 田 有 正



社会福祉法人里曲保育園「里曲保育園」は、佐久市臼田地区のJR八ヶ岳高原線(旧小海線)の臼田駅東側に位置している。東は群馬県下仁田村に接し、西には中部横断自動車道佐久・臼田インター、北には浅間山、南には八ヶ岳に囲まれ、その中央には、千曲川が流れている。

近くには、桜の名所として、三分山の中腹にある遍照寺や日本に2つしかない五稜郭があり、毎年、4月中旬から5月上旬には、園児たちと一緒にお花見に出かけている。2005年に、佐久市・臼田町・望月町・浅科村の4市町村が合併し、新佐久市が誕生したが、臼田町のころは、パラボラアンテナやスタードームがあることにちなんで、星の町「うすだ」を名乗っていた。現在も、その頃の名残で、あちこちの通りに、星座にちなんだ名前や星座の形をした街灯を見ることができ。そして、千曲川のすぐ脇にある稲荷山の頂上には、ロケットの形をした展望台のコスモスターがあり、毎年10月には、紅葉を見に、子供たちと園外保育へ

行く。コスモタワーの最上階からの眺めは素晴らしく、本園の周囲も含め、佐久平という広大で、自然豊かな地域に住んでいることを改めて実感させられる。

本園の里曲保育園は、「さとうほいくえん」と読む。園名の由来は、作詞・高野辰之、作曲・岡野貞一で有名な童謡「おぼろ月夜」を創立時の理事長が好み、2番の歌詞に、「里わの火影(ほかげ)も 森の色も 田中の小路をたどる人も蛙(かはづ)のなくねも かねの音も さながら霞める おぼろ月夜」の「里わ」からきている。

昭和49年に認可保育園、社会福祉法人里曲保育園、里曲保育園として開園し、今年で創立47年目を迎えた。「子どもの最善の利益」、「子どもの福祉の増進」を理念に、開園当初から、延長保育や3歳未満児保育を行い、時代のニーズに合わせて、一時保育の実施や育児相談、未就園児交流サークルや近くの「高齢者生活協同組合東信地域センター」で、定期的に年配の方たちと園児の交流を行っている。

本園でも他園と同じように毎月多くの行事を行っているが、中でも、ふれあい農園活動・鼓笛活動&オペレッタ活動に特徴がある。

ふれあい農園活動では、保育園の裏にある「園の畑」で、土作りから収穫に至るまで、園児が保育士と一緒に頑張った皆さんの種類の野菜の栽培活動をしている。この栽培活動では、園児に戸外に関心を持たせ、身近な自然に関心をもち、土を重視している。具体的目的としては、「①野菜の好き嫌いの解消を促す。②五感を使うことができ、発達を促す。③園児が食べ物に興味を持つ機会となる。④自然に触れることから豊かな感性の育成となる。⑤野菜を育てながら、命を育てる実感を持たせる。」の五つである。

鼓笛やオペレッタ活動では、基本的に潜在的な基礎能力を養うことを目的として行っている。それらは、集中力であり、思考力、判断力、記憶力、創造力、表現力など、人が社会生活をしていくのに最低必要な力であり、誰もが潜在的に持っている力である。



。これらの力がバランスよく発揮されることにより、自主性や積極性が養われ、豊かな心が育まれていく。さらに、めまぐるしく変化する環境に柔軟に対応できるような感性や感受性を持つことも、これからの社会生活をおくる上で大変重要なことである。海外との交流が増え続ける今日では、「黙っていても分かりあえる」とか、「みんなと違うことは、居心地が悪い」という考え方は通用しない。他との違いを認め、きちんと自己を表現できることこそ、これから生きていく子どもたちに求められるものであり、「生きる力」や「課題解決能力」につながる大切な要素でもある。

今後、本園では、これまで行ってきた保育の見直しを行うとともに、これからの社会をしつかりと見すえ、目の前の子ども一人ひとりの姿に焦点を当て、適切なアプローチを考えていき、保育士一人一人が子どもを見る力の向上を図っていく。また子どもの育ちの土台である家庭との連携をより一層図っていく。その上でこれからの社会が子どもたちに要求するであろう多くの試練に耐えられる基礎能力の発見と伸長を第一の目的とし、身体的・感覚的・知的にバランスのとれた子どもたちの成長をめざしていきたい。



『生きる力のある子』を育む保育

伊那市 西箕輪保育園 副園長 伊藤 智香

伊那市すべての公立保育園では、おもしろがる・不思議がる・試みながら・知りたがるなど、意欲をもって行動する姿を「がるがるっこ」と名付け、これらの経験から感性や知恵・意欲など『生きる力のある子』が育つことを目標に保育を行っています。

当園の周囲は山や畑など自然豊かで、その自然を活かした園庭には山の斜面があります。そこには三十本ほどの様々な木々があり、どんぐりなどの実のなるもの・花や紅葉が楽しめるものなど、季節の移り変わりを身近に感じることが出来ます。

その園庭には興味そそる自然物がたくさんあります。自分の好きな大きさや形、手触りのいい枝を選び抜き、ガムテープなどでくっつけて武器に…毛糸を巻いて魔法のステッキに…紐を垂らして釣り竿に…同じ太さを探して箸に…大きな枝はテントに…と、思考を巡らせ自慢のものが出来上がります。工夫を見せ合い、友だちや小さな子に教えるのも子どもたち。毎日、あちらこちらに『○○



先生』がいるのです。時には、丸太と板を集め「これ椅子にするからくっつけたい」との声に、金づちと釘を用意。「じいちゃん、こうやってた」と思い出しながら…ときどき手を叩いてもちよつと得意げに…次の日も納得が行くまで取り組んでいます。子どもの自発性を大切にし、興味を探り、より想像力を掻き立てる環境設定が大切だと感じています。



そして、山の斜面は滑り台に、木はジャングルジムに変身。揺れて足場が不安定な感覚も、回数を重ねるうちに楽しくなっていきます。自分が目標としている場所へ慎重に登ったり、飛び降りたり。時には「せんせー怖い。降りる」と助けを求めることも…。でも、一回では終わりません。少しするとまた、挑戦しに来るのです。きつと『やり遂げたい』気持ちで勝つのでしょうか。自分が納得いくまで降りず、次に待つ子にせかされることもしばしば…。「今日、ここで寝る!」と木の上での景色と居心地を堪能する子もいます。

このように、こどもたちが自然の中で、自ら豊かに学び成長する姿は頼もしいです。正解はなく、子ども



同士認め合えます。飽きることもないので、満足を積み重ねられる経験が出来ます。これらは、より心豊かに体の発達も促してくれます。子どもが何かに『いいなあ』と感じる心、『これがしたい!』という願いや意欲、そして挑戦する心の成長を見逃さず『生きる力』を育くむために、子どもたちに寄り添える丁寧な保育を心がけていきたいと思っています。

「コロナと向き合いながら

大町市 あすなろ保育園 園長 松井 弥生



あすなろ保育園は、大町市の南に位置する常盤地区にあり、定員180名規模の大きな園です。周りには、凛とした北アルプスがそびえ立ち、今の季節、雲一つない快晴のときには、空の青さとまっ白い雪山のコントラストがくっきりと映し出され、いつになっても感動する景色が見られます。

ここには、地域の子どもたちがほぼ入園を希望し、現在は、140名程の園児が在籍しており、ここ数年は、未満児からの入園を希望している御家庭が増えてきている傾向となっています。

隣接する小学校とは、入学前から交流の機会をもつことができ、小学校を身近に感じながら入学をしていることができます。

今年度は、昨年度からの新型コロナウイルス感染拡大予防によることから、保育も大きく影響する一年となりました。日々の感染予防対策として、手洗い、消毒、換気、検温と共に、三密にならない対策として、机に座るのは3名までとする、園児が多く集まる時は短時間にする、行事の際は、間隔をあけて参加する等、

できる範囲での対策をしてきました。子どもたちにも、新型コロナウイルスの怖さは浸透し、消毒することの必要性を理解して生活様式の変化に対応をし、習慣化できるようにになりました。

行事の内容に関しても、今まで通りにはできないことも多く、方法を考えていくことが必要となりました。毎年、当たり前に行ってきたことは、すべて検討し、方法を工夫したり、延期や中止をしたりと見直しをした結果、分散型の参観日、年齢ごとの運動会、保護者の人数制限、外部からの来ていただく行事の取りやめ、地域との交流行事を中止にすることなど、その時の感染状況に合わせた対応をしながらの保育となりました。様々な制約の中で行うことは、保育士も戸惑いがありました。初めは、三密を避ける為だったことが、逆に色々なことが見えてくる機会にもなり、当たり前に行っていたこととは、子どもたちにとってよかったことだったのか、この方がよかったのかもしれないと思うこともありました。

年間の一大行事となっている運動

会も、工夫が必要になりました。保護者の方にご理解をいただき、年齢ごとで行いましたが、保護者の方には広々と見ていただく空間ができ、子どもたちも、お家の方がすぐそばにすることが一目でわかり、ほんわかした雰囲気の中で行うことができましたように思います。また、時間を短縮をすることで、体力的な疲れと緊張からくる疲れも少なかったのではないかと感じました。他年齢には練習の様子を見ることが「次は私たちの運動会」として、楽しみにできたりもしたようでした。

参観日についても、春は行うことができませんでしたが、秋は、密を避ける方法を考えることで実施ができるようになった為、分散型の参観日としました。短い時間の中ではありましたが、保護者の方には、お子さんをじっくり見ることでできる時間となったのではないかと、子どもたちにとっても、日頃と環境が大きく変わらないうちで、活動ができていたのではないかなど、感じました。

保育士の戸惑いをなくす為には、様々な面で、保育士同士がコミュニケーションを取ることや連携を密にすることがいかに必要であることをとても感じた一年になりました。

長く、先の見えないコロナ禍の中で、子どもたちには、経験させてあげたかったことが十分でないことも多々ありましたが、子どもたちの



笑顔は、コロナ流行の前と変わらず、変化にも対応をしている姿には、生きる力を秘めたたくましさを感じられます。

私たち保育士も、柔軟な考えを持って対応し、子どもたち一人一人が心身ともに健やかに成長できる保育を心がけていきたいと思っています。



「コロナ禍の中「新しい保育のかたち」

長野市 山王保育園 園長 内 岩 かほる

山王保育園は、一時預り保育を実施し、子育て支援センターが併設されている園です。長野駅より徒歩十分、長野市の中心部にあり、周りには県庁、JA長野県ビル、マンションなど十階建以上のビルが立ち並び、交通量も多い場所に位置しています。

市街地ですが、園の横には用水路（通称「山王川」と呼んでいます）があり、沢蟹を見つけることができます。毎年、年長児のみが入って遊べる特別な場所になっています。県の信州型自然保育（普及型）の認定を受けています。

「環境」

新型コロナウイルス感染症の発生により「いつもと同じ」ができない・・・。令和二年四月からの登園自粛期間が、新しい保育の準備期間になりました。

どこへ行くにも人の多い所を通らなくては目的地に行かれない立地のため、園内で自然に関わることでできる環境を整えることにしました。

そこで、幼児、未満児組の職員がそれぞれ話し合い、自由に摘んで遊

べる花や野の草などを、園庭のフェンス沿いやプランターに植えましました。普段だと園庭の草は草取りの対象ですが、あえてそのままに・・・。子どもたちの遊びの仲間になりました。自由に摘み、集めて楽しく遊ぶ未満児の子どもたちです。



幼児は、三・四歳混合三クラス、年長児一クラスの四クラスで保育を行っています。前年度末には、三・四・五歳の異年齢で交流する計画を立て

ていました。しかし、それも難しくなり、年齢ごとの活動の保障も、なるべく人数を減らしクラスごとになりました。そのために職員間の話し合いの時間が増え、保育に対しての連携がより深くとれるようになっていきました。

「行事」

密が避けられない保育参加は中止しました。保護者には、日々の保育を写真で掲示する機会を増やし園での様子をこまめに伝えました。写真の掲示が増えた事で園での子どもたちの様子がより分かり易くなったのではないかと思います。

夏祭りは、保護者や小学生も一緒に楽しむ行事の一つでしたが、今年は園児と職員のみで行いました。二日間クラスごとに分かれ、各コーナーをゆつくり回りたつぷり楽しむことができました。保護者から、「いつもの夏祭りは忙しいけれど、たっぷり遊んだようです」「自分から、楽しかった様子を話してくれました」「などと感想をいただきました。親子で時間内にコーナーを回ることが中心だった夏祭りが、ゆつたりと子ども主体で楽しめるものになりました。

園での行事は本来「これだね！」子どもたちの笑顔と楽しそうな姿を見て職員と感しました。



運動会、たのしみ会は、保護者の人数制限、検温等、理解と協力をお願いし、クラスごとに実施しました。

「これからの保育」

コロナ対策を考える中で、当たり前のように行ってきたこれまでの保育や行事を見直す良い機会となりました。しかし、基本にある「安心・安全な保育園」そして、「子どもたちにとっての最善の利益とは何か」をこれからも職員と模索していきたいと思っています。



令和2年度部会活動報告

管理部会研究テーマ

『子どもの命を守る』
《園外保育マニュアル参考資料作成》

今年度の管理部会は、昨年度から引き続き、『子どもの命を守る』というねらいから、「園外保育マニュアル」の作成を行ってきました。圏域により新型コロナウイルス感染症のレベルが上がり開催出来ないこともありましたが、3回の管理部会を行うことができました。

第一回管理部会では、飯田女子短期大学准教授 田中住幸先生による『園外保育マニュアル作成の注意事項について』と『保育士の危険予知能力の重要性について』御講演をいただきました。御講演の中では管理部会で作成している「園外保育マニュアル」についても御助言をいただき、より具体的なマニュアルにすることの大切さを教えていただきました。

第二回管理部会は「園外保育マニュアル」を管理部員全員で文章表現や項目ごとの繋がり確認を丁寧に行い、保育士が利用しやすくより分かりやすいものになるように討議

しました。

第三回管理部会は、コロナ禍により3密を避ける対応として、役員のみで会議を行い、修正箇所確認と校正を行いました。

令和元年・二年の2年間を通して管理部会は、通年より少ない会議や研修ではありましたが、園外保育を行うに当たり、保育所・認定こども園の職員は、子どもの命を守るために、周到な準備と計画のもとに、豊かな経験を子どもたちに保証していかなければならないと学びました。地域性や施設を取り巻く環境が違ってもあるため「園外保育マニュアル」として作成していましたが、参考資料として利用していただきたいと考え「園外保育マニュアル参考資料」「園外保育に出かけよう!」という題名とし、長野県保育連盟のホームページに掲載する予定です。

子どもたちが園外保育に出かけ、安全に信州ならではの自然を五感で感じ様々な体験となるよう「園外保育マニュアル参考資料」「園外保育に出かけよう!」を活用していただきたいと思います。



保育部会研究テーマ

保育のハンドブック二〇二〇

保育部会では例年「長野県保育研究大会の開催」「保育所地域子育て塾の開催」「保育の質の向上につながる調査研究」と大きく分けると三つの事業を行っています。

しかし、昨年一月、新型コロナウイルス感染症が国内でも発生し、四月七日には全国に緊急事態宣言が発出される中、県下四地区で開催予定の子育て塾については、感染症拡大防止の観点から中止するかたちとなりました。

中信地区では白梅学園大学 子ども学部 教授 師岡 章先生、南信・北信地区では熱田福祉会けやきの木保育園 園長 平松 知子先生、東信地区では(二社)家族・保育デザイン研究所 代表理事 汐見 稔幸先生をお招きして講演会を予定しておりました。

さらに、長野県保育研究大会についても感染症収束の目途が立たず、中止となりました。特にこの大会は昨年、大型台風の接近により中止になった経過もあり、連年の開催中止となりましたことに、大変残念な思

いがいたします。

最後に、保育の質につながる調査研究については、「保育のハンドブック二〇二〇」として冊子完成の運びとなりました。保育所保育に関する基本原則、健康及び安全、子育て支援、職員の資質向上、保育士(社会人)としての心得、マナー等、保育所保育指針を基に、五つの視点から研究調査を進めました。コロナ禍にあり、全体での部会の開催が難しい中、全体会是一回のみとなり、あとはグループごとに集まったり、電話やメール等で連絡を取り合ったり、時には小委員会を開催しての一年でした。

部会運営にあたり、松本短期大学 幼児保育学科 生田恵津子教授、長野県県民文化部 こども・家庭課 保育係 川上真実先生にご指導いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

新たなかたちでの研修会のあり方を、模索しなければならないこれからの時代です。新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束を願ってやみません。



給食委員会

『食物アレルギー対応マニュアル
～長野県版～』の活用にあたって

給食委員会は、令和元年度からの委員で引き続き研究を進めてきました。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症の終息の兆しが見られず、延期となることが続き研究を進めるにあたっては、全委員そろっての開催は厳しい状況でした。そんな中実施した活動報告をさせていただきます。

保育所保育指針が改定されたことや、アレルギー疾患対策に関する最新の知見が得られたことを踏まえて、『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(厚生労働省)』が2019年に改訂されました。長野県保育連盟では、平成二十九年に長野県版として『食物アレルギー対応マニュアル』が作成され活用してきました。この国のガイドラインの改訂に伴い今回は、改訂されたポイントをどこがどのように変わったのかを分かりやすくまとめ、引き続き長野県版のマニュアルを活用していただけるよう、改訂ポイントの資料を作成しました。合わせて、県内の市町村から寄せられたアレルギー対応の献立を主菜・

副菜・汁物・おやつにそれぞれまとめたレシピ集も作成しました。

資料をまとめるにあたっては、コロナ禍の中で会議が限られてしまいましたが、県こども・家庭課保育専門推進員の重倉幸子先生の御助言をいただきながらまた、メールでのやり取りをしながら、資料の作成にあたっては、関係者の皆さまにも御協力いただき、資料作成まで至ることができましたこと、心より感謝申し上げます。

今年度、給食委員会で作成しました次の資料は、長野県保育連盟のホームページからダウンロードしていただき、ご活用ください。

①『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(2019年改訂版)改訂ポイント』

②『アレルギー献立のレシピ集』

この度、給食委員会に携わることのでき子どもの食に関して時代と共に環境の変化に伴い、食の環境も変わりつつあることを改めて実感し再確認できました。いつの時代でも子どもの健やかな成長を願い、命につながる『食』の大切さを私たち大人が、しっかり見極め子どもたちに提供していく必要性を次年度へ引き継ぎ、報告とさせていただきます。

園で人気のおやつレシピ

コーンの薄焼き

<材料 1人分>

小麦粉	15g
スキムミルク	3g
水	適宜
コーン粒	20g
サラダ油	2g
しょうゆ	1g

<作り方>

- ① 小麦粉とスキムミルクを合わせ、水とコーンを加えて生地を作る。
- ② フライパンを熱しサラダ油をひいたら、生地を薄く流し入れ、両面を焼く。
または…
天板に生地を流し入れて、オーブンで焼く。(この場合は、油を生地に混ぜ込む)
- ③ 焼きあがった薄焼きにしょうゆをハケで塗り、食べやすい大きさに切り分ける。

*溶けるチーズを混ぜ込んで焼く場合は、しょうゆを減らす



(長野市中央保育園より)

みそまんじゅう

<材料 1人(1個)分>

小麦粉	20g
重曹 又は ベーキングパウダー	0.5g
卵	8g
砂糖	5g
みそ	2g
牛乳	10g

<作り方>

- ① みそに牛乳を加えて溶いておく。
- ② 小麦粉と重曹(ベーキングパウダー)を合わせて、ふるう。
- ③ 卵と砂糖をよく混ぜ、②を加えてよく混ぜる。(硬いようなら水を加える)
- ④ ③に①を加えて、ひと混ぜする。
- ⑤ カップに④を入れて、強火の蒸し器で約15分蒸す。



(長野市中央保育園より)

園で人気のおやつレシピ

棒ドーナツ

<材料 1人分>

にんじん	15g
薄力粉	18g
砂糖	1.8g
バター	3g
塩	0.3g
白いりごま	0.8g
水	適宜
揚げ油	2g

子ども達に人気のメニューです。卵、乳不使用なので、アレルギー児にも対応できます。

<作り方>

- ① にんじんをすりおろす。
- ② 薄力粉、砂糖、溶かしバター、塩、白いりごまを全て混ぜ合わせる。
- ③ ②の生地に①のにんじんを加え混ぜ込む。(生地が硬ければ、水で調整をする。)
- ④ 1cmくらいの厚みに平たく伸ばし、棒状にカットする。
(※好みで生地を薄く伸ばしてからカットすると、仕上がりがブリッツ状になります。)
- ⑤ 油で揚げる。



(山ノ内町立かえで保育園より)

ヨーグルトポムポム

<材料 (20cmくらいの天板またはパイ皿1枚分)>

りんご	1個
レモン果汁	少々
プレーンヨーグルト	150g
卵	2個
砂糖	50g
サラダ油	40cc
小麦粉	100g
ベーキングパウダー	小さじ1

ポムとは、フランス語でリンゴという意味です。冷やして食べても、常温で食べても、温めて食べてもおいしいですよ。レーズンを入れるのもおすすめです。

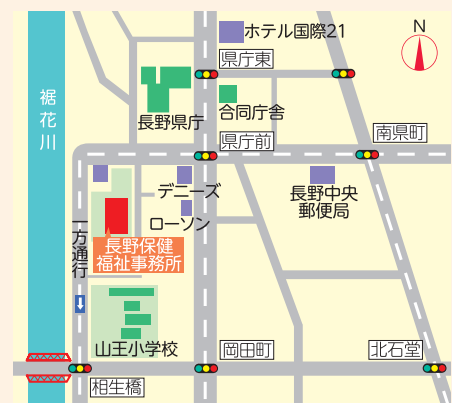
<作り方>

- ① りんごは厚さ5mmに切ってレモン汁をかけておく。
- ② 天板にクッキングシートを敷き、小麦粉とベーキングパウダーを合わせてふるっておく。
- ③ 卵・砂糖・サラダ油をボールに入れて混ぜ、ヨーグルトを加えてよく混ぜる。
- ④ ③に小麦粉を少しずつふるい入れ、ダマができないようになめらかになるまで混ぜる。
- ⑤ パイ皿にりんごを並べ、生地を流し入れる。
- ⑥ 200℃に温めたオーブンで30分くらい焼いて出来上がり。



(白馬村しろうま保育園より)

長野保健福祉事務所交通案内図



【交通手段】

- ・JR長野駅から徒歩 20分程度
- ・長野電鉄権堂駅、市役所前駅から徒歩 15分程度
- ・長野市循環バス「ぐるりん号」、川中島バス合同庁舎線県庁前バス停から徒歩 5分程度
- ・高速バス長野県庁前バス停から徒歩 5分程度
- ・駐車スペースあります

保育連盟事務局が移転しました
2月15日に事務局が移転しました。新事務局は、長野保健福祉事務所庁舎の2階です。お気軽にお立ち寄りください。

〒380-0936

長野市中御所岡田98-1

(電話・ファックスは変更なし)

編集後記

昨年の卒園式は、新型コロナウイルスまん延防止のため、本園では卒園児の保護者1名のみ出席という卒園式が行われました。今年はどのような卒園式が開催されているのでしょうか。

国の専門家会議により「新しい生活様式」(ソーシャルディスタンス・3密の回避・マスクの着用)が提案されました。これは人類が今まで経験がない未曾有の事態だと言われています。その上で改めて考えてみるに保育・子育てと「新しい生活様式」は両立するのでしょうか。

大切なことは、「ヒトは、他者との身体的な接触なしには生存できない」ということです。大人とは異なる「発達途上」の脳を持つ子どもにとっては、リアルではないコミュニケーションによる弊害は無視できません。

コロナ禍の中とはいえ、子どもの成長は止められません。我々、子どもたちの成長にたずさわる者は、できる限り3密を避けながら、子どもの心身の発達をしっかりと考え、どう保育していくのかということが、これからの大切な思われます。

広報委員